



### はじめ

僕の故郷に西会津国際芸術村という文化交流施設があります。母が開村からスタッフとして関わっていることもあり、小さい頃から母の後ろについて何度も訪問していました。昨年の秋頃帰省した時に、現在芸術村に常勤されているAさんとお話をする機会がありました。そのお話の中で「3.11以降、時間が10年早まってしまった。10年後にやるだろうと思っていたことを、今やらなくてはいけなくなった」というお言葉があり、自分自身今やらなくてはいけないことは何かを考えさせられました。その一つが映像制作に関わることでした。

### きっかけ

AKB48「恋するフォーチュンクッキー」のPV (Promotion Video) を模したオリジナルのPVが動画投稿サイトにアップされているのを知ったのもちょうどその頃です。AKB48が好きだったこと、PV作成に興味をもつ友人がいたこと。企画を始めるには充分すぎるきっかけでした。すぐにTwitterやfacebookを利用して情報を拡散し、T-ACTに企画を申請し、広報室の方にもご協力いただけるようになりました。二人のそれぞれの知り合いやSNSに反応してくださった方が加わり、プロジェクトもようやく動きだせる体制が整いました。そして、踊っていただく方々の募集を開始しました。

### 初めてのことでばかり

参加者の募集を始めてから数日で、多くの反応があり、企画がうまくいっていると心躍る毎日でした。しかし、募集が終わり、いざ撮影を始めようとすると、やらなければならないことが“分からない”、“できない”という壁にぶつかりました。「映像を作りたい!」という気持ちばかりがあふれ撮影をどのようにすすめるかなど制作面で一人あたふたとしてしまいました。またそういった問題にぶつかると、自分自身いっぱいいっぱいになってしまい、他のできていた作業も遅れてしまうといった悪循環に陥ってしまいました。“自分がやりたい”という気持ちばかり先走り、周りに目が配れなくなっていたのです。その結果、一緒に活動してくれていたメンバーや興味を持って参加して下さった方々に迷惑をかけてしまいました。

### 「頼る」こと

この頃からようやく芸術専門学群で映像を学んでいる学生に意見を仰ぐようになりました。また映画に造詣の深い学生も紹介してもらい、撮影について

相談をするようになりました。その過程で、やりたい事をどう実現させればいいのかははっきりとしてくるのが分かりました。これが人に頼って得た一つの結果だと思います。“気持ち”ではなく“目標”を定めること。その目標を達成するために必要な要素をそろえることをもう一度考え直しました。副学長の先生方や広報室の方々にも「留学生と日本人学生と一緒に踊っている映像がほしい」、「大学だとわかる映像にしてほしい」などの具体的なご意見をいただくことができ、作品により厚みを持たせることができたと思います。

### 「失敗する」こととこれから

「映像制作に携わる」という挑戦を終えました。約半年続いた撮影の間、多くの失敗をしてきました。あまりにも多くの失敗を踏んでしまい、信頼のおける行動がとれませんでした。22歳になっても、大人の振舞いができず、子どものように色々な人に迷惑をかけてしまいました。しかし、開き直すわけではありませんが、失敗した反面、参加して下さった方々から多くの幸せをいただきました。笑顔、明るい声、元気に踊る姿、心が弾んでいる様子。筑波大学で生活している多くの方々との出会いを通じて、皆さんの素敵な部分をたくさん見ることができました。普段生活しているだけでは、出会うことがなかった人たちとの出会い、この幸せなお返しをいただけたことで、これからも「挑戦」し続けようという気持ちがさらに強くなっていくのを、今、実感しています。自分の可能性を「失敗」から広げていくことができる。そういうことを学べた素晴らしい時間でした。それもこれも一緒に活動してくれた「つくばで恋チュン」委員会のメンバーや、ご尽力いただいたT-ACTフォーラムの職員の方皆さん、パートナーの増田さん、木野内さん、そしてPV撮影に参加して下さった多くの方々のおかげです。



お世話になったT-ACTフォーラムの方々にも踊っていただきました!